



令和2年度 SIP第2期 臨時課題評価結果

令和2年6月25日

ガバニングボード決定

令和元年2月27日のガバニングボードにおいて「A」評価より低い評価を受けた以下の2つの課題について、今般、ガバニングボードの決定に基づき「SIP第2期課題評価ワーキンググループ」(座長：須藤亮 内閣府政策参与・SIPプログラム統括)において再評価を実施した。

【再評価対象の課題名】

- 「IoE社会のエネルギーシステム」(柏木PD)
- 「スマート物流サービス」(田中PD)

再評価の目的は、上記2課題について、本年2月の評価における指摘事項を踏まえて、研究開発内容や体制等が適切に見直され、その結果、前回と同様の評価項目で再評価した結果、「A」評価以上に達しているか否かを確認するものである。

なお、上記2課題に対して配分予定の本年度予算のうち、現在、配分を留保している予算については、今回の再評価において「A」評価以上に達していることをもって配分することとする。

ガバニングボードは、「SIP第2期課題評価ワーキンググループ」の再評価結果を基に、上記2課題の再評価結果を以下のとおり決定する。

再評価結果

課題名	I o E 社会のエネルギー・システム
P D名（敬称略）	柏木 孝夫

・総合評価結果

令和元年度課題評価では、主として、テーマB、Cについて実用化・事業化に至る技術に絞ること、テーマAを拡充し、具体的なアウトプットを明確にすることとの指摘がなされていた。これに対し、令和元年度課題評価時点での報告の通り、テーマCにおける走行中給電に関する研究開発を取りやめ、テーマAの実施内容の具体化を行うとともに、目標が明確化されており評価できる。

今後は、全体システムのデザインと、個別の技術開発を上手く連携することで、国際的にも優位なシステムとなるように進めていくことを期待する。

総合評価

A

・主な指摘事項

テーマAの取組内容が具体化され、他テーマとの関係性、テーマAの目標が明確化されており評価できる。課題の全体像・シナリオが整理されたため、分かりやすくなった。

地域エネルギー・システムのデザインに関して、分析結果や策定するガイドラインのユーザーが使いやすくなるような工夫を行うことや、エネルギー・システムの分析に必要なデータを継続的に集めることができるように体制の構築について、検討に着手はされているが、確実に出来るように推進してもらいたい。

（以上）

再評価結果

課題名	スマート物流サービス
P D名（敬称略）	田中 徹雅

. 総合評価結果

令和元年度課題評価では、主として、物流に関する社会課題の解決を実現するために取り組むべき具体的な目標の設定とそのアプローチの明確化を行うこと、テーマBにおいて実施する研究開発の優位性や全体構想の中での位置づけを明らかにするとともにステージゲートで絞り込みを行うこと、研究開発を実施するためのマネジメント体制を大幅に強化すること、との指摘がなされていた。これに対し、研究の目標と達成までのステップが明確化され、開発すべき技術が具体化されたほか、サブP D、ピアレビュー委員が拡充され、実施体制が格段に整備されており評価できる。

今後は、府省連携、課題間連携の取組をさらに推進し、プロトタイプモデルの構築を拡充することで、業種横断的なデータ連携基盤の構築を推進していくことに期待する。

総合評価

A

. 主な指摘事項

研究開発目標が示されたことは評価できる一方、大目標として設定されている「物流分野における生産性の30%向上」という目標に対し、研究テーマごとに設定されている個別目標がどのように寄与するのか論理的な紐づけを明確に示すことが望まれる。

物流分野の課題として挙げられている「積載効率の低下」に対し、これまで十分に対処出来ていなかった原因とその原因を踏まえた解決策の全体像、及び全体像の中における本課題での取組みの位置づけを明確に示すことで本課題の重要性を分かりやすく示してもらいたい。

「データ主権」や「匿名化」といった技術開発のキーコンセプトとなる表現の定義を明確に行なうことで、具体的にどのような目的でどのようなことに取り組もうとしているのかを明確にする必要がある。

（以上）

参考 1

表 1 : 第 2 期課題評価のランク付け

評価	標語
S	<u>極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。</u>
AA	<u>適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。</u>
A +	<u>適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。</u>
A	<u>目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、当初予定どおりの成果が得られている。</u>
A -	<u>目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、予定を下回る成果となっている。</u>
B +	<u>目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、予定を大幅に下回る成果となっている。</u>
B	<u>目標の設定、その達成状況その他大きな改善を要する面がみられる。</u>

表 2 : 評価と得点の関係

評価	令和元年度課題評価における得点	平成 30 年度評価における得点
S	315 点 ~	140 点 ~
AA	280 ~ 315 点	130 ~ 140 点
A +	245 ~ 280 点	120 ~ 130 点
A	175 ~ 245 点	100 ~ 120 点
A -	140 ~ 175 点	90 ~ 100 点
B +	105 ~ 140 点	80 ~ 90 点
B	~ 105 点	~ 80 点

(注) 表 2 は平成 31 年 2 月 28 日ガバニングボード及び令和 2 年 2 月 27 日ガバニングボードの評価結果に基づく。

参考 2

S I P 第 2 期課題評価WG委員名簿

座長

須藤 亮 内閣府政策参与・S I P プログラム統括

委員

小豆畠 茂 元株式会社日立製作所フェロー

五十嵐 仁一 JX リサーチ株式会社代表取締役社長

江崎 浩 国立大学法人東京大学大学院情報理工学系研究科教授

岡崎 健 国立大学法人東京工業大学科学技術創成研究院特命教授

小栗 久典 弁護士法人内田・鮫島法律事務所パートナー弁護士

君嶋 祐子 慶應義塾大学研究連携推進本部副本部長・法学部教授

小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所理事長

小向 太郎 日本大学危機管理学部教授

佐々木 良一 東京電機大学総合研究所特命教授

白井 俊明 横河電機株式会社マーケティング本部シニアアドバイザー

竹中 章二 池上通信機株式会社フェロー

林 いづみ 桜坂法律事務所弁護士

藤野 陽三 城西大学学長

吉本 陽子 三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社経済政策部
主席研究員

(敬称略、五十音順)

臨時課題評価WGの審議実績

令和2年5月25日 第1回会合

- | 「IoE社会のエネルギー・システム」(柏木PD)
- | 「スマート物流サービス」(田中PD)